

山間地域の住民が安心して暮らせる地域づくり

地域エリア：栃木県

パートナー：栃木県庁環境森林部
森林整備課

コミュニティデザイン学科：小清水 里映
建築都市デザイン学科：田中 瑞暉
社会基盤デザイン学科：金沢 悠太



小川 真季
李 嘉昱

背景

毎年多くの台風や豪雨による被害が報告されている。栃木県は県の約50%が中山間地域（平野の外縁部から山間地のこと）であり、被災のときに民間に被害が生じやすい。災害対策が必要である。

しかし、山地災害は発生の予想が困難であり全体のハード面での掌握は不可能。よってソフト面の対策が不可欠。

目的

山間地域の災害について深く知り、現在行っている防災活動の現状と課題を明らかにしたうえで、山間地域の安全の向上を目指し提案を行う。

活動

5/25 栃木県の地理、山間地域の災害やその防災方法について調査

11/8 栃木県庁森林部森林整備課職員に電子メールにてアンケート

地域防災推進員の代表の方に電子メールにてアンケート調査

12/15 被災現場(現在復旧中)ココファーム・ワイナリーを見学

12/22 栃木県庁にて山地防災推進員代表の方に面接調査

分析結果

・被災状況

土砂災害の発生の予測は困難であり、あらかじめ発生が予想できないため、発生後の迅速な対策が最も有効的である。土砂災害の多くは山奥で発生巣が、民家周辺で起きることも例外ではなく、対策は必要である。

・栃木県庁森林課

土砂災害の予測は難しいため、発生後の迅速な対応を心がけている。発生の情報を入手、調査、周辺地域に情報伝達、対策案企画・実行の手順を素早くこなす。国で定められた防災ヘルパーの他に山地防災推進員を設立。情報提供を行ってもらっている。

・山地防災推進員

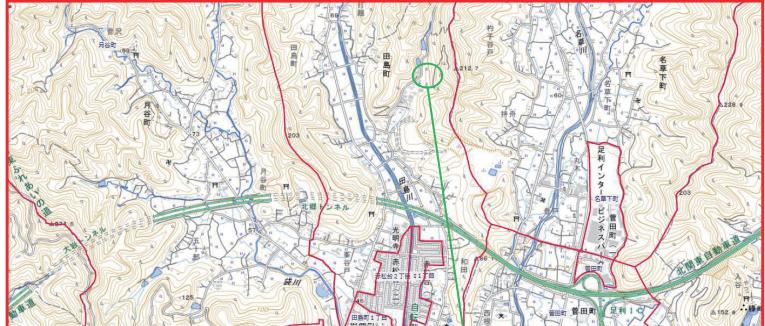
山地に関する仕事や、防災に携わる職の方々で構成されており、ボランティアで災害発生の情報提供を行っている。強制的な防災活動の義務はないが、土砂災害の発生や二次被害抑制に貢献。



ココファーム・ワイナリー 被災直後の様子

方法

被災現場見学として足利市島町のココファーム・ワイナリー見学また栃木県庁森林課や山地防災推進員の方にアンケートとインタビューも実施



ココファーム・ワイナリー

上図の田んぼの場所は全て民家がある。大まかな地図では分からぬが、人口の分布は川の周辺のみに分布しており、その半数以上が山に囲まれている。宇都宮市や鹿沼市の中心部が平野箇所に立地していて人口密度は高い。

提案

防災活動を普及させるために防災便りを作成し、中山間地域の災害について知ってもらい、ソフト面での被害縮小を目指す。



山地防災推進員の存在を知っている人が少ないのでポスターを作成し、組織の存在を認知もらう。加えて山地防災推進員の人員は年々減少傾向にあるので人員確保も目的とする。

このポスターは防災便りやインターネット上にも掲載する事を提案とする。



山地防災推進員に登録するには、
「防災便り」登録用紙に記入して、
郵送またはFAXにてお問い合わせください。



お問い合わせ先
〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田町1-1-20
電話番号: 028-623-3223

